

包摂的地域コミュニティの「ことづくり」における 参加・育成型アプローチ

2026年3月24日

課題3 A-1プロジェクトチーム

研究開発代表機関

産業技術総合研究所

分担機関

大和ハウス工業

つくばウエルネスリサーチ

筑波大学

東京大学

発表者

大和ハウス工業株式会社

まちづくり統括部 タウンマネジメントグループ

三鬼 健太



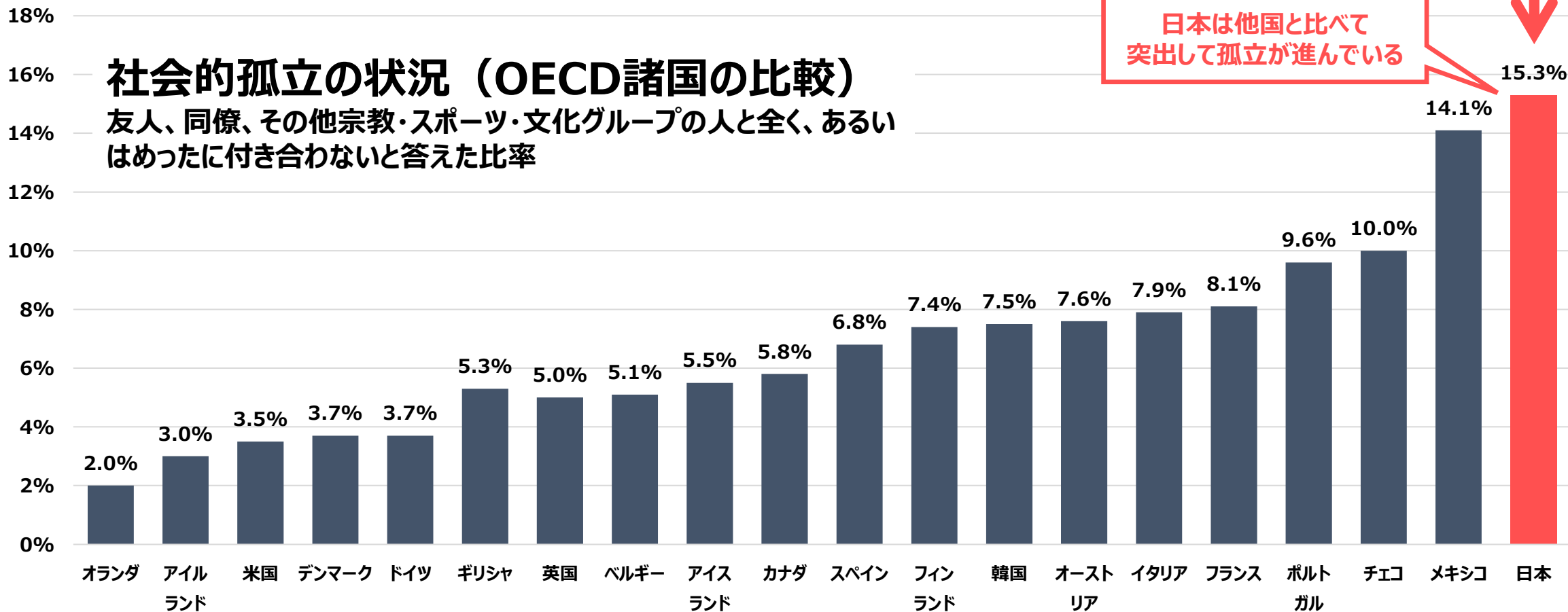
- 1. 取組みの背景**
- 2. A-1が開発する社会技術の全体像**
- 3. 阪急北NPでの取り組み**
- 4. 交流拠点「nocoto」でのことづくり**
- 5. 最後に**



取組みの背景

世界でも「孤立」している人が多い国、日本

15.3%

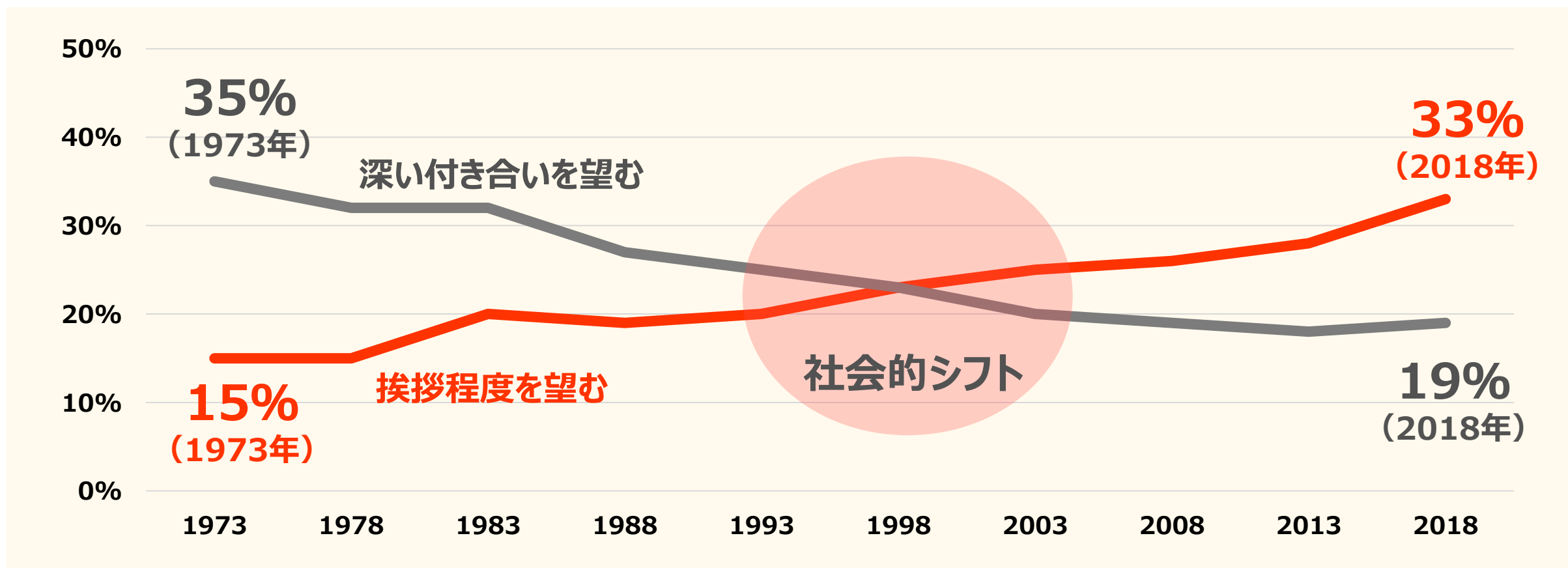


日本は他国と比べて突出して孤立が進んでいる

(注) 原資料は世界価値観調査1999-2002。英国はグレートブリテンのみ。
(資料) Society at a Glance: OECD Social Indicators - 2005 Edition
(出典) 社会実状データ図録

求めているのは「濃密な地縁」でない

現代人のニーズは明確にシフトしている。深い付き合い（相談・助け合い）を望む層は減少し、「あいさつ程度」の緩やかな関係を望む層が過去最高に。



「多様で気持ちのいいつながり」を“意図的にデザイン”する

かつての地縁

自然発生



これからのインフラ

つくれる仕組み

「自然に」つながりが生まれる時代からのシフトチェンジ
長寿社会において「つながり」は生活インフラとなる。

「無理なく」外に出かけ、交流する“きっかけ”を日常から支える仕組みを再設計する必要がある



A-1が開発する社会技術の全体像

包摂的地域コミュニティマネジメント(人、場、活動)を支える社会技術

住民の自律性・寛容性向上を実現する
「地域コミュニティマネジメント活動」

住民と地域に多様な価値を提供する
“包摂的コミュニティ形成基盤”を構築

新しい地域コミュニティ形成によるアプローチ

地域住民の
“意識・行動変容”

住民と地域の
多様な“つながり”創出・向上

地域やコミュニティが抱える課題解決

孤立・孤独
社会参加減少

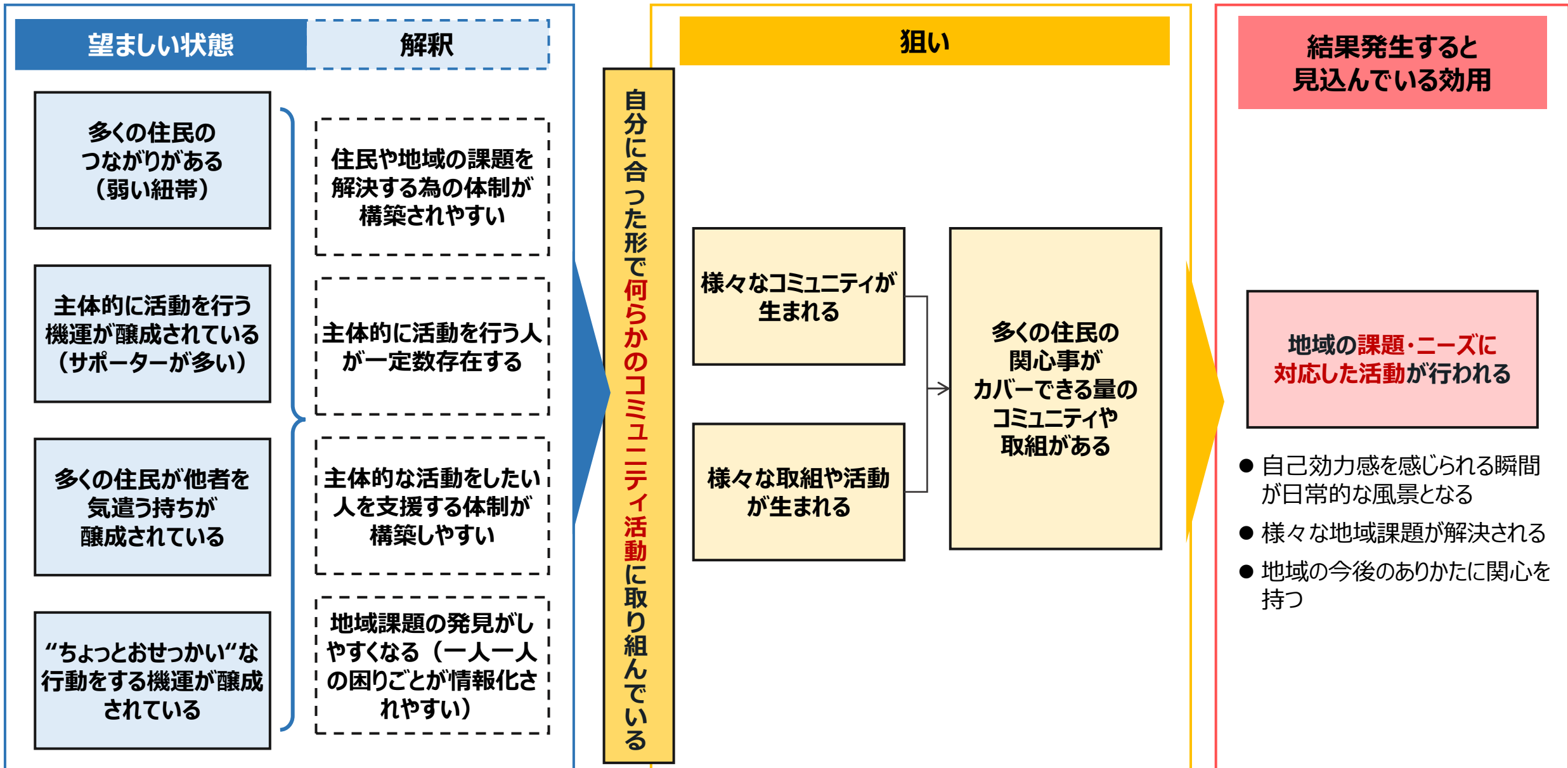
担い手不足
地域経済衰退

地域や住民への価値提供

Well-being向上
外への関心・寛容

健康増進
自律性の向上

A1が開発する社会技術 | 狙いと効用



CBIツールを作成するための CBIビルダー

地域やユーザーに応じてつながりづくりを支援するデジタル技術

- ID付で地域住民の活動データ、アンケートを収集、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング (STP※)により効果・効率を向上する施策ライブラリ
- 施策をデータベース化し、どのような施策が適切かの仮説を提案、効果検証を行う支援ツール
- 同意条件とユーザ権限によってプライバシー保護データベース、人工データ・欠損データ生成、検証データ生成機能

包摂性評価指標

包摂性を評価する為の具体的な指標

- 地域の包摂的状況（自律と寛容の相互作用、意識・行動変容）を把握する為の評価指標

人材育成プログラム

つながりを地域で育む為に必要な介入施策

- 行動変容に繋がる意識醸成を促すプログラム
- 活動の担い手やコミュニティマネージャーのスキルやマインドを育てる人材育成プログラム

LCM法人・ガイドライン

● LCM法人を地域で成立させるプロセスが書かれているガイドライン

- 地域住民の中からコミュニティ活動に参画する人々を見出し、意識醸成、スキル向上を通しコミュニティ活動を行うグループの核を形成

A1が開発する社会技術 | これまでの検証・開発



松が丘ベース

イベント用カード発行

POSEIDONによるアンケート

個別IDカードの発行

包摂指標による悉皆調査



交流拠点nocoto

交流拠点の運営中で活用開始

2024

2025

これまでの活動

- ・ 開発中のシステム（POSEIDON）を使って、アンケートとして情報収集を行い、システムの不備や修正箇所を洗い出し、システムの更新
- ・ 特に重要な個人IDを発行する為にひとつづつ機能を確認、拡充（2次元コードの読み込み、ID発行によるマイページ機能の追加）
- ・ 包摂指標から具体的なアンケート項目を策定し、調査を実施
- ・ 人材育成プログラムの実施
- ・ 自動でデータが収集できるかのテスト（AIカメラ）

拠点でのPoC

これまで検証した技術を交流拠点で活用

- ・ 個人IDの付与と継続的なデータ収集
- ・ 包摂指標を参考にした情報を活用
- ・ 拠点スタッフによるデータ活用





阪急北ネオポリス（兵庫県川西市）での取り組み

■ 包摂性評価指標を基盤としたアンケート調査

阪急北ネオポリス（兵庫県川西市）に暮らす18歳以上の全住民に対して、紙またはwebでアンケート

阪急北NP世帯数 (川西市統計)	配布世帯数 (実数) ※1	調査回収世帯数 (実数)	調査回収世帯数 (実数%)	18歳以上人口 (川西市統計)	回収数	有効回答数	有効回答数/ 統計上の対象者数 ※3
4,792	4,331	1,898+a※2	43.8%	9,062	3,597	3,375	37.2%

※1 牧ノ台コミュニティ協議会に委託し、空き家でない家にも配布

※2 終盤に世帯ID不明のWebアンケートを実施した為

※3 配布世帯数が統計より10%少ないため、対象人数も同様に少ないことが予想される

● アンケート分析

- 地域に対する愛着や幸福度、生活状況や性別や年齢等の属性情報、性格に関する内容など、包摂性評価指標を取り入れた100問を超えるアンケートをPLSA、ベイジアンネットワークにて潜在構造を分析し、クラスタリングを実施
- 5つのクラスタを特定・抽出

データ分析：クラスタリング

Q. あなたは下記のような会・グループに参加または興味がありますか

- ①健康や医療サービスに関係したボランティア活動
- ②【①以外の】ボランティア活動
- ③スポーツ関係のグループやクラブ
- ④趣味関係のグループ
- ⑤学習・習い事サークル
- ⑥特技や経験を他者に伝える活動
- ⑦インターネットでSNSやLINEなどで自分の家族以外との交流
- ⑧地域行事（お祭り、盆踊り、フリーマーケット等）
- ⑨町内会・自治会
- ⑩婦人会・青年会・協議会など

回答項目

現在参加している

興味はある

頼まれれば参加する

興味はない

参加

参加していない

Q. あなたに頻繁に連絡を取り合うことや定期的に集まって気軽におしゃべりをする人は何人いますか？

Q. 相手のことをたがいに知っている人（例：〇丁目に住んでるAさん）は何人いますか？

Q. あなたが、助けを求めることができるくらい親しく感じられる友人は何人いますか？

回答項目

いない

1人

2人

3-4人

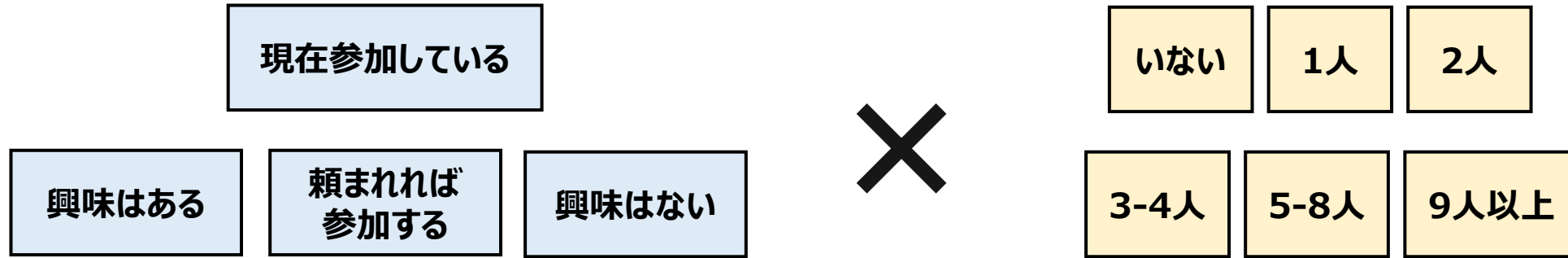
5-8人

9人以上

データ分析：5つのクラスタに分類

活動への参加状況又は意識

地域内の友人の数



5つのクラスタに分類

Z001

現在参加している

9人以上

Z002

興味はある

3-4人

Z003

頼まれれば参加する

3-4人

Z004

興味はない

3-4人

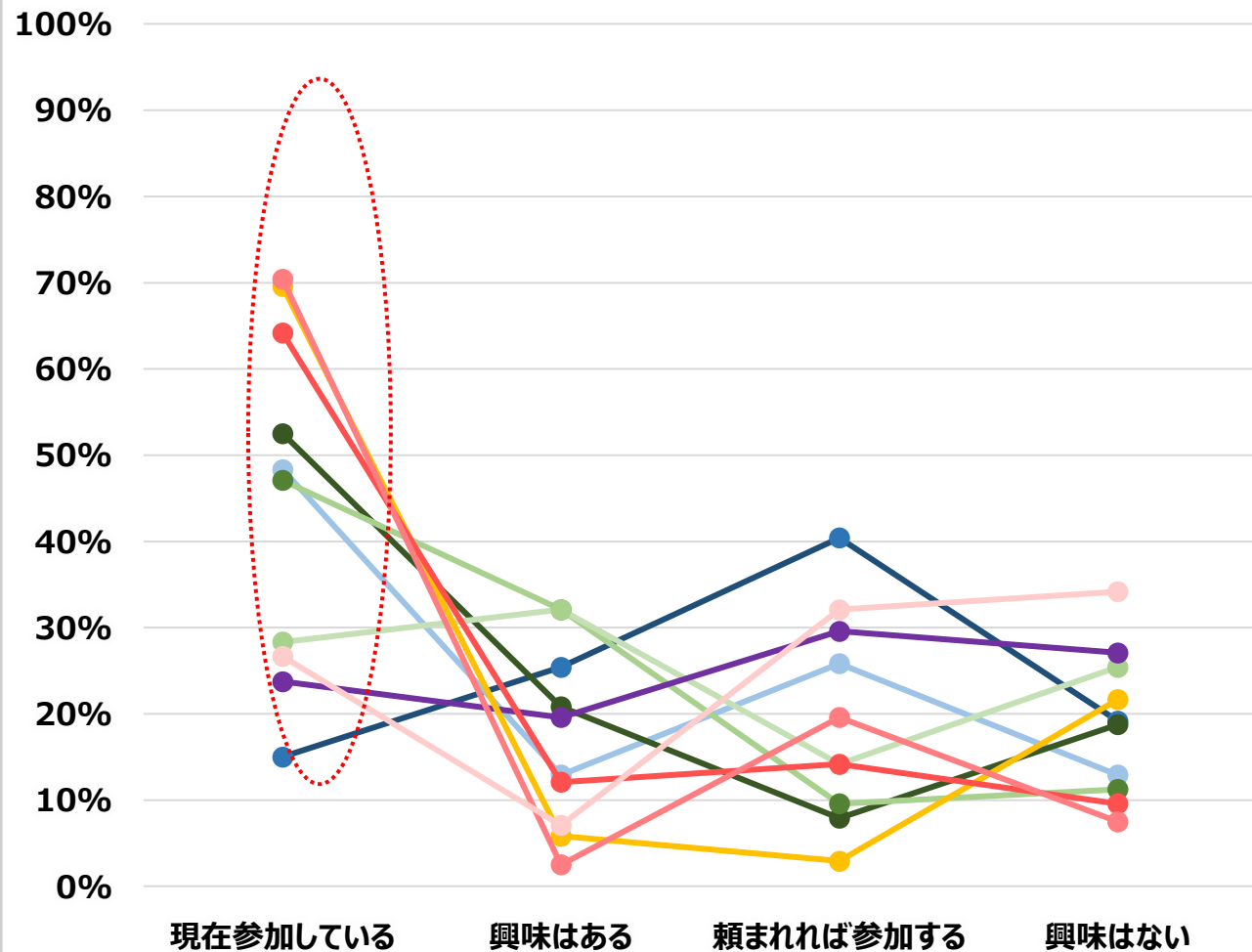
Z005

興味はない

いない

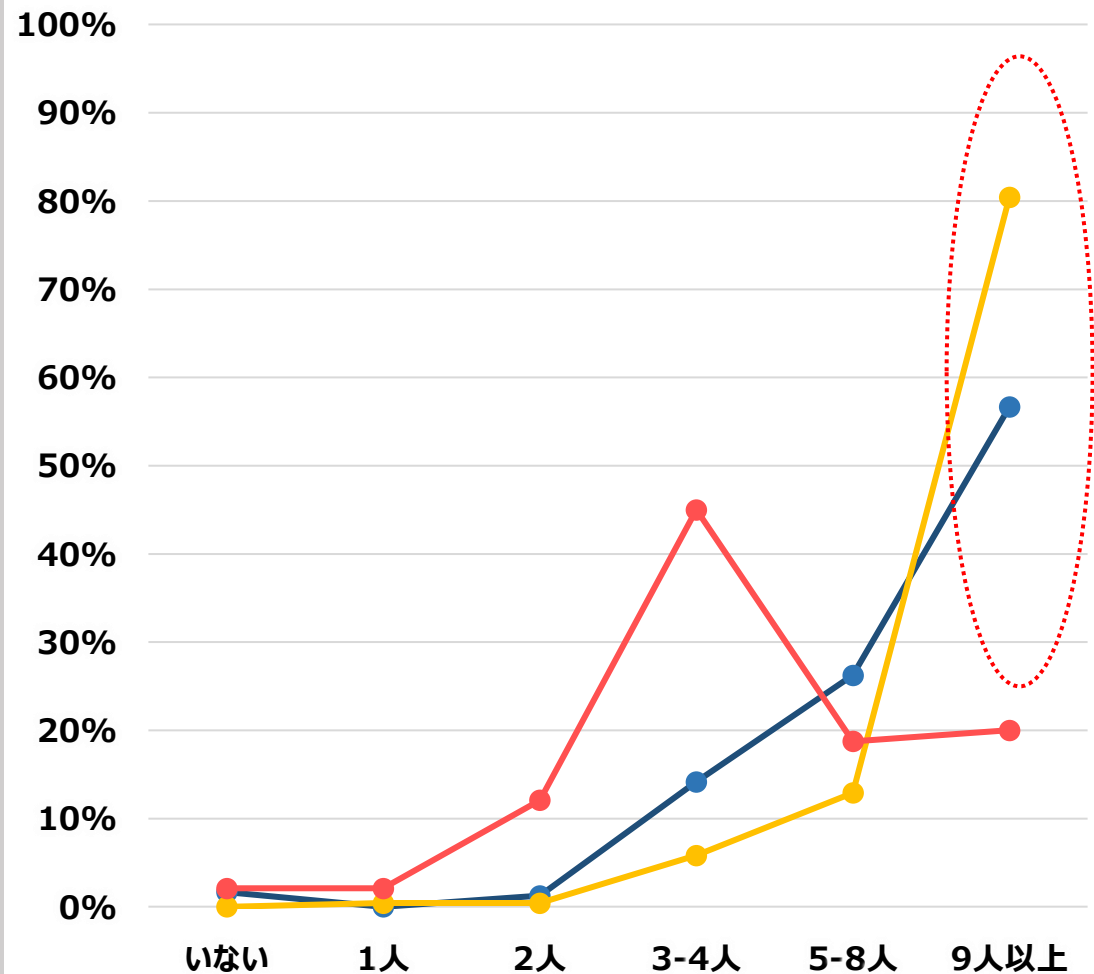
クラスタ (1/5) | Z001 : 参加に積極的 & 友人多い ラベル『参加・積極』

あなたは下記のような会・グループに参加または興味がありますか



- 健康や医療に関連したボランティア活動
- 健康医療以外のボランティア活動
- スポーツ関係のグループ
- 趣味関係のグループ
- 特技や経験を他者に伝える活動
- 趣味関係のグループ
- 学習・習い事サークル
- インターネットでの家族以外との交流
- 地域行事 (お祭り、フリーマーケット等)
- 町内会・自治会
- 婦人会・青年会・協議会

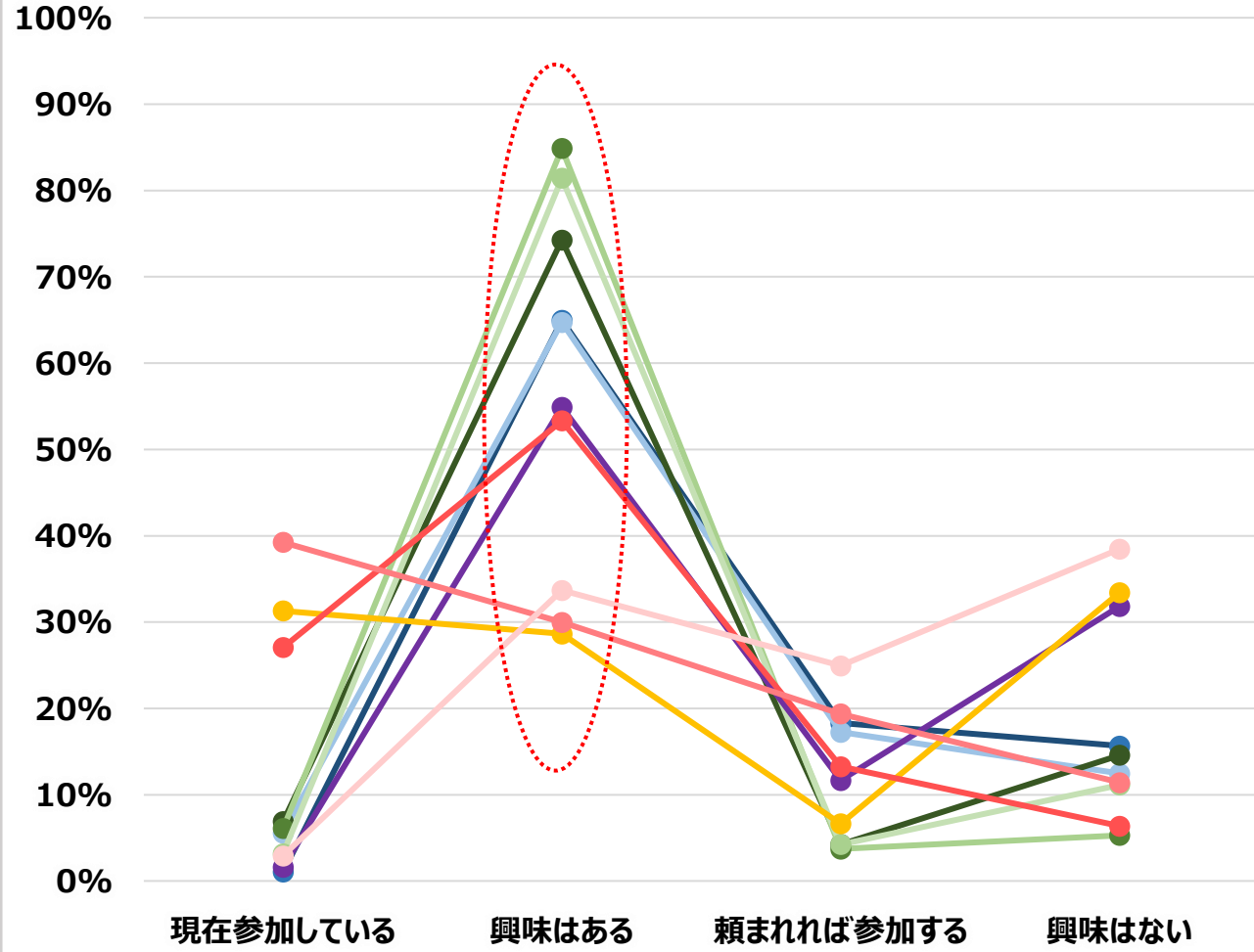
つながり | 3つの設問



- お互いに知っている人数
- 頻繁に連絡を取り合うことや定期的集まっておしゃべりする人数
- 助けを求められることができるくらい親しく感じられる友人の人数

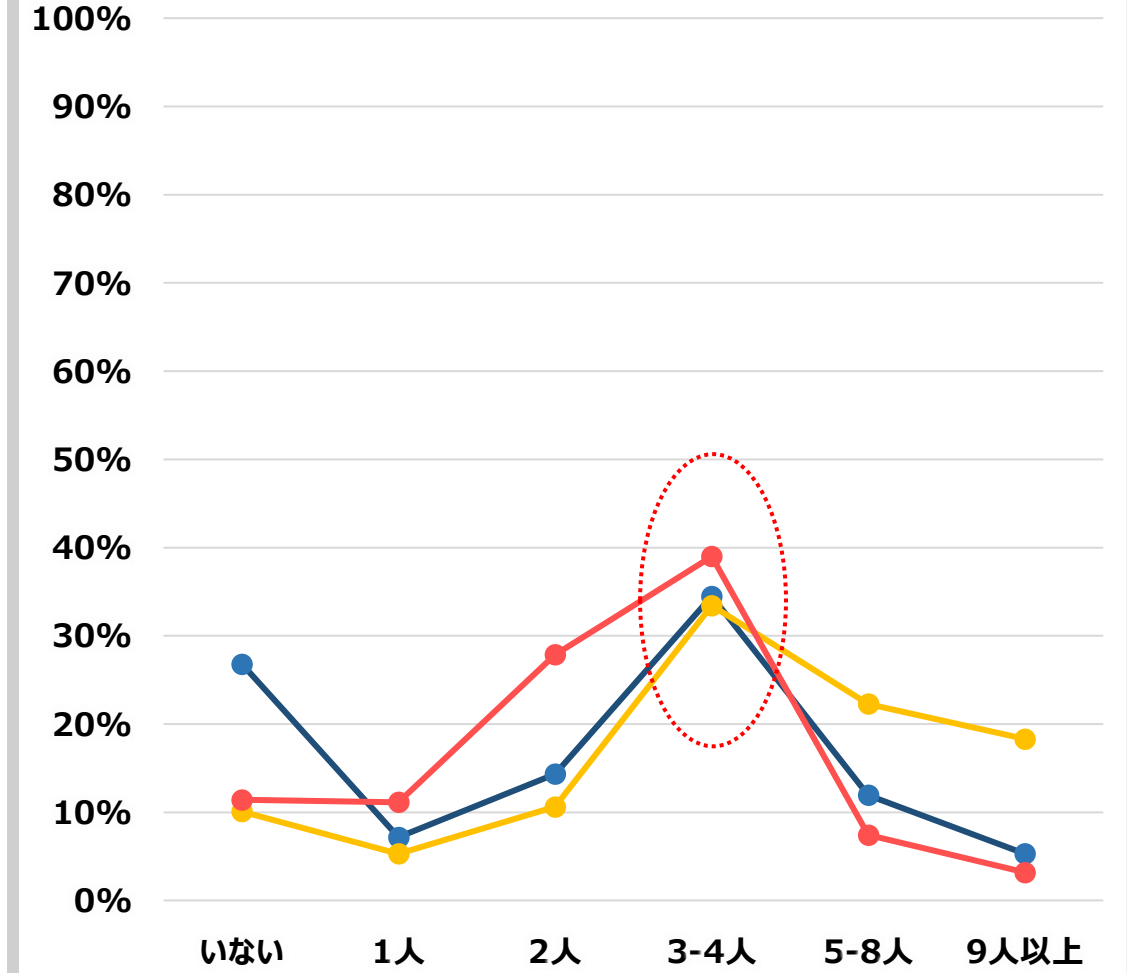
クラスタ (2/5) | Z002 : 参加しないが興味あり&友人あり ラベル『潜在・興味』

あなたは下記のような会・グループに参加または興味がありますか



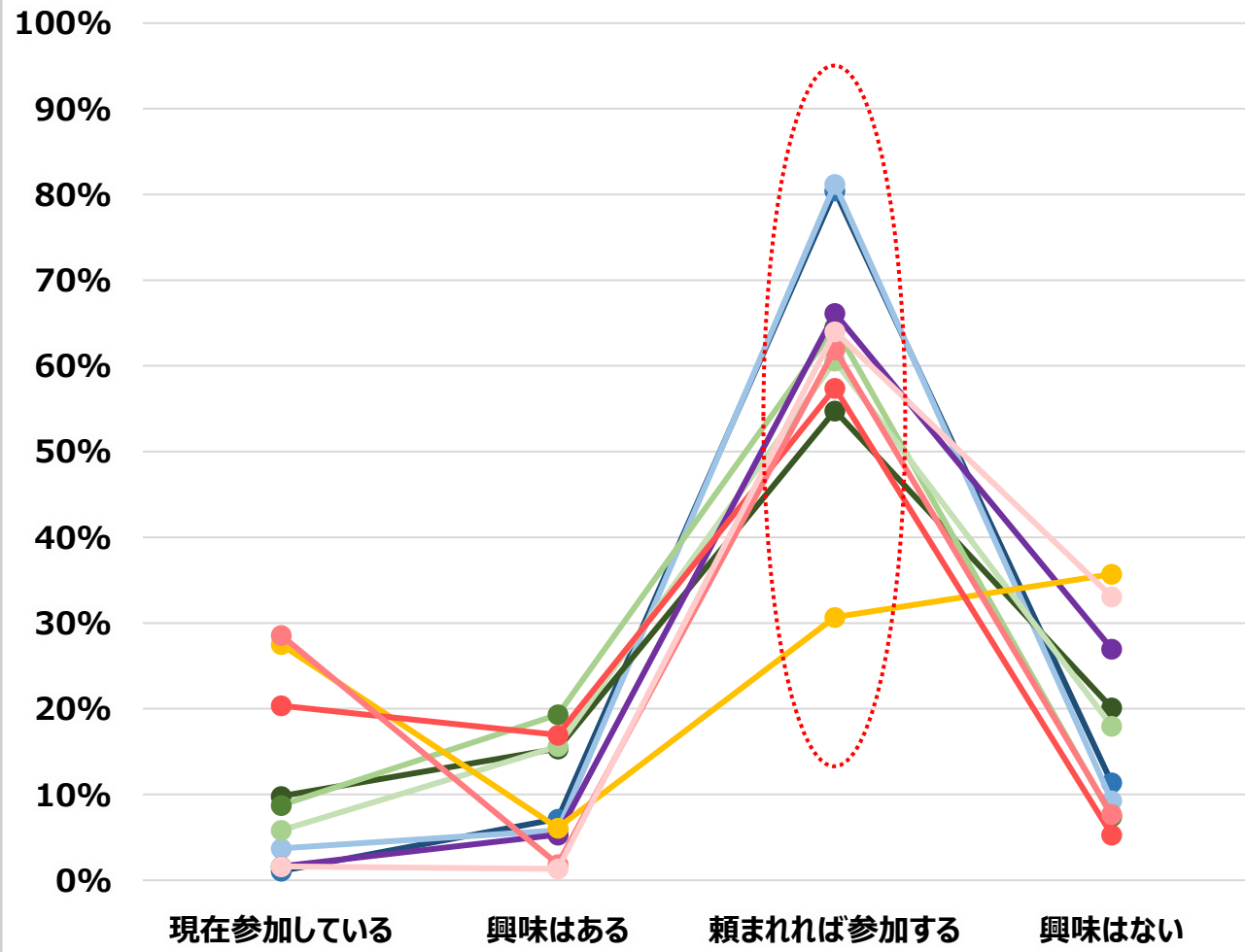
- 健康や医療に関連したボランティア活動
- 健康医療以外のボランティア活動
- スポーツ関係のグループ
- 趣味関係のグループ
- 特技や経験を他者に伝える活動
- 趣味関係のグループ
- 学習・習い事サークル
- インターネットでの家族以外との交流
- 地域行事 (お祭り、フリーマーケット等)
- 町内会・自治会
- 婦人会・青年会・協議会

つながり | 3つの設問



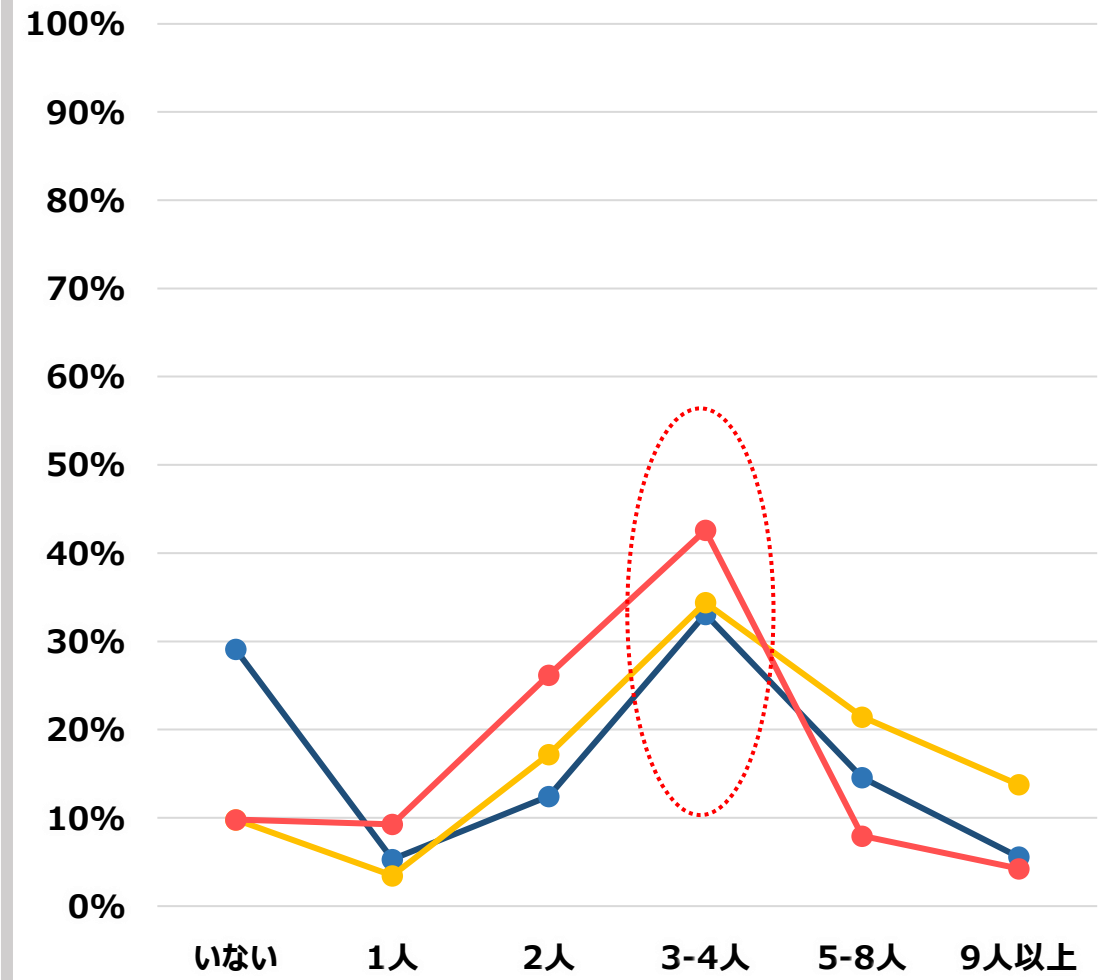
- お互いに知っている人数
- 頻繁に連絡を取り合うことや定期的集まっておしゃべりする人数
- 助けを求められることができるくらい親しく感じられる友人の人数

あなたは下記のような会・グループに参加または興味がありますか



- 健康や医療に関連したボランティア活動
- 健康医療以外のボランティア活動
- スポーツ関係のグループ
- 趣味関係のグループ
- 特技や経験を他者に伝える活動
- 趣味関係のグループ
- 学習・習い事サークル
- インターネットでの家族以外との交流
- 地域行事 (お祭り、フリーマーケット等)
- 町内会・自治会
- 婦人会・青年会・協議会

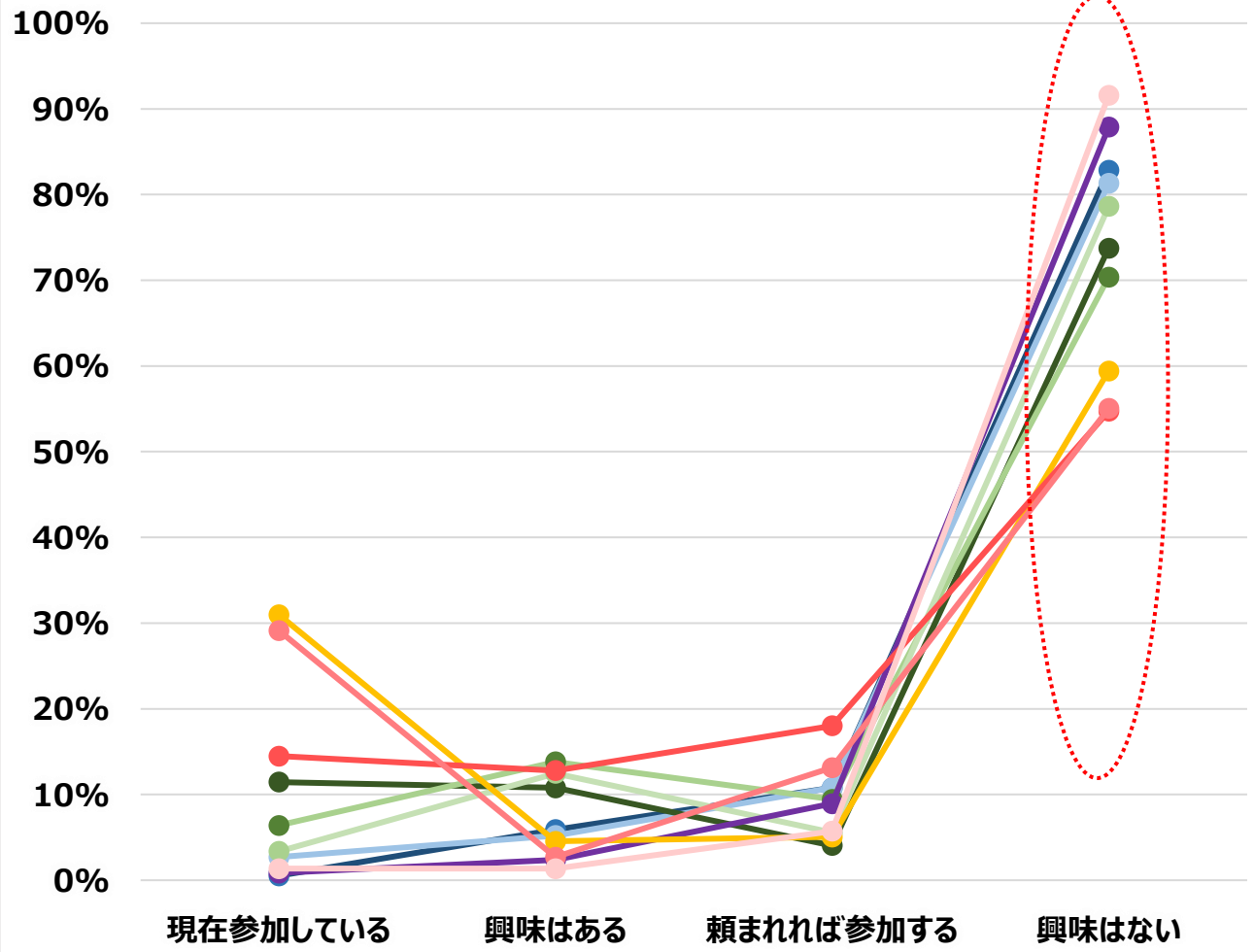
つながり | 3つの設問



- お互いに知っている人数
- 頻繁に連絡を取り合うことや定期的集まっておしゃべりする人数
- 助けを求められることができるくらい親しく感じられる友人の人数

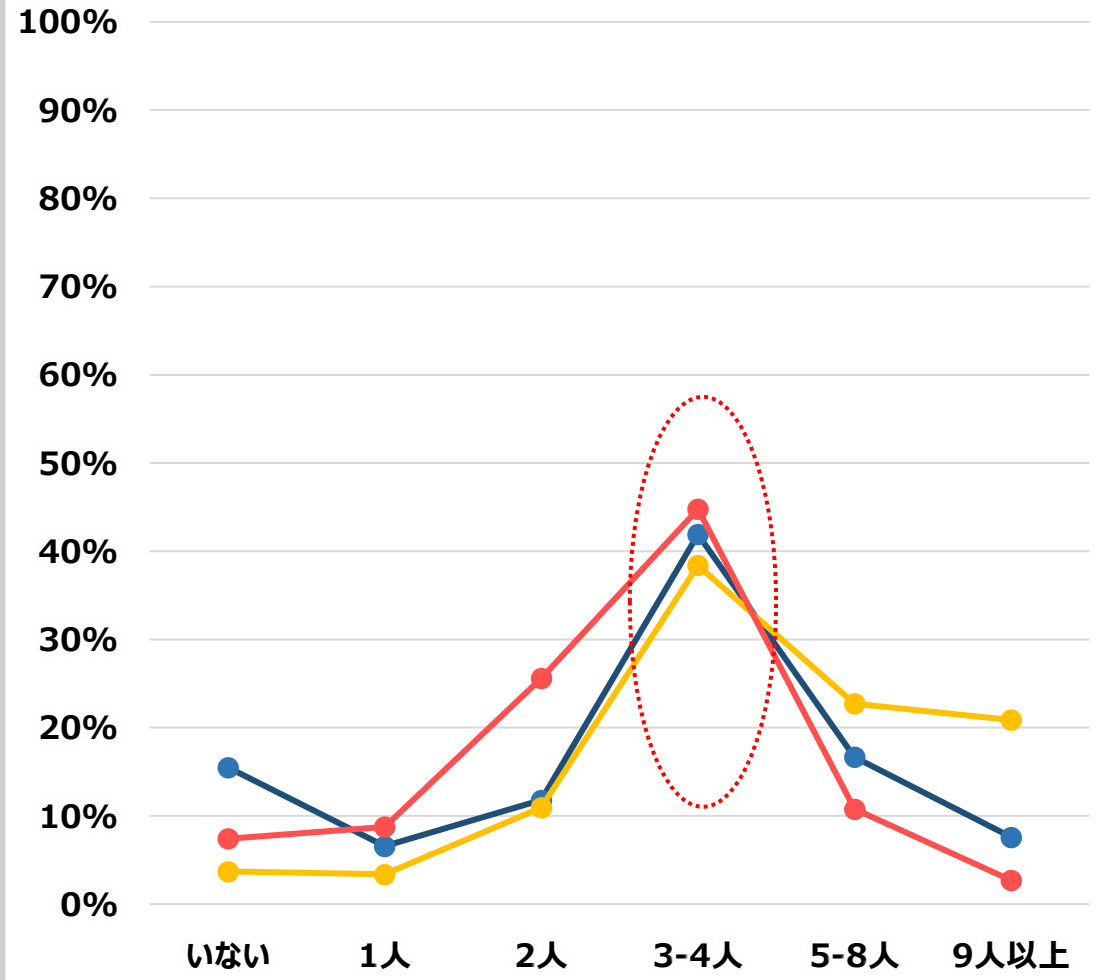
クラスタ（4/5） | Z004：参加しない上、興味なし&友達あり ラベル『停滞・無関心』

あなたは下記のような会・グループに参加または興味がありますか



- 健康や医療に関連したボランティア活動
- 健康医療以外のボランティア活動
- スポーツ関係のグループ
- 趣味関係のグループ
- 特技や経験を他者に伝える活動
- 趣味関係のグループ
- 学習・習い事サークル
- インターネットでの家族以外との交流
- 地域行事（お祭り、フリーマーケット等）
- 町内会・自治会
- 婦人会・青年会・協議会

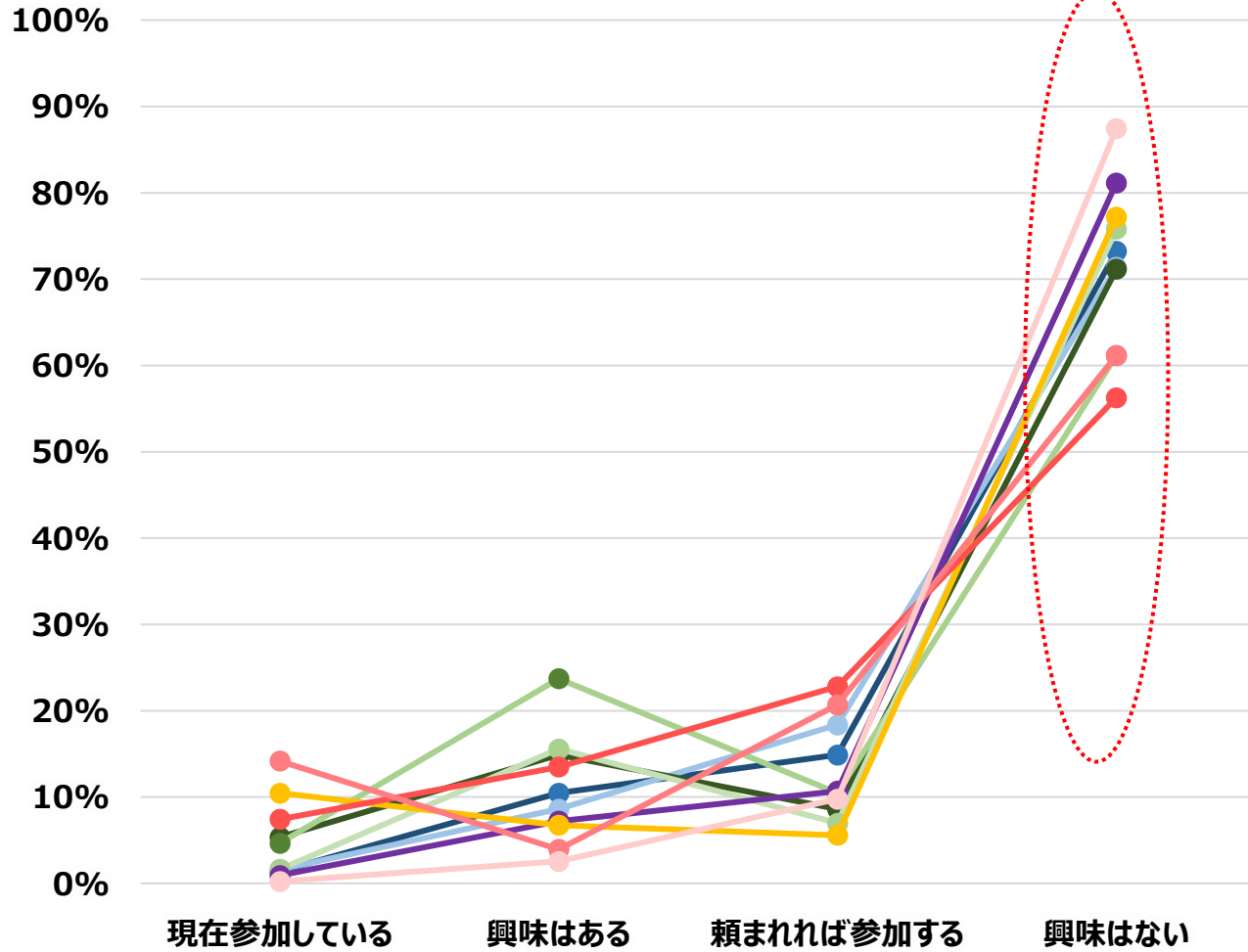
つながり | 3つの設問



- お互いに知っている人数
- 頻繁に連絡を取り合うことや定期的集まっておしゃべりする人数
- 助けを求められることができるくらい親しく感じられる友人の人数

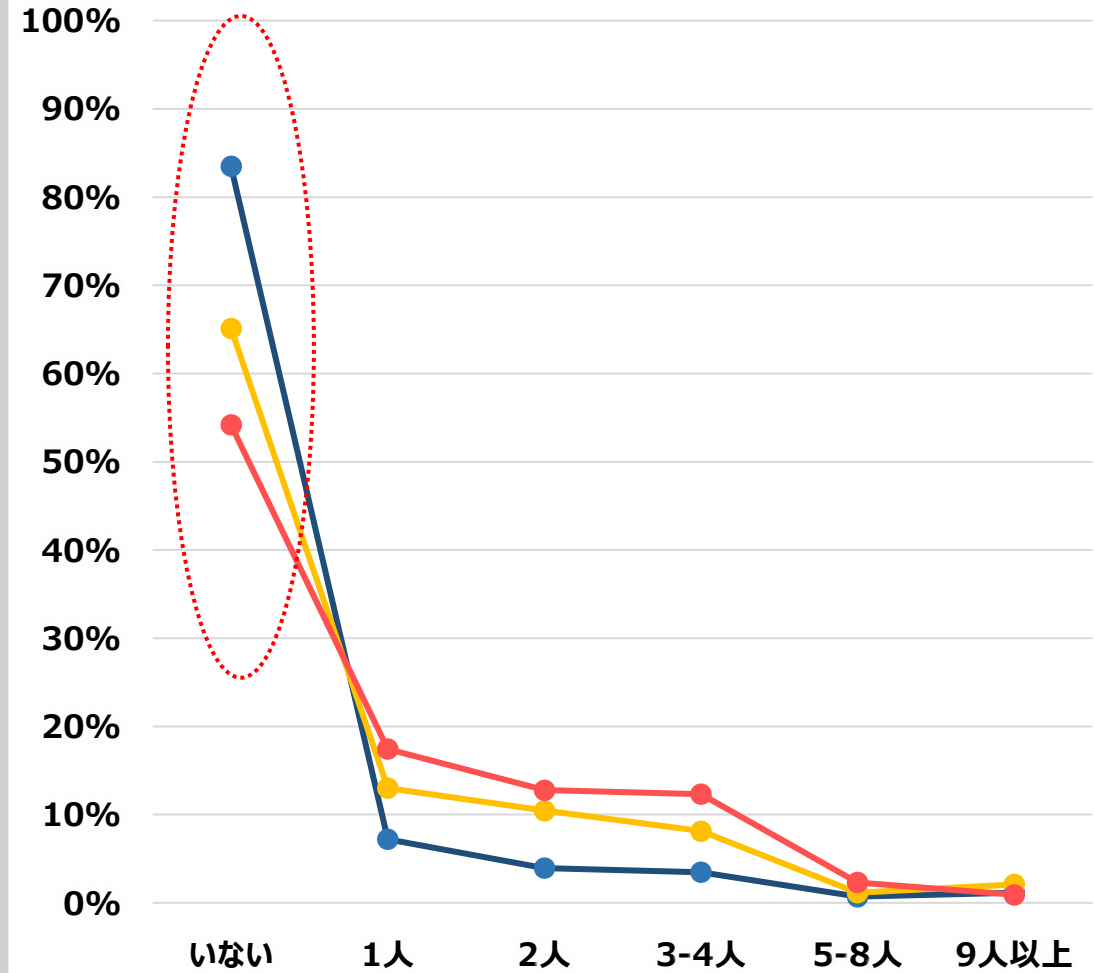
クラスタ (5/5) | Z005 : 参加しない上、興味なし&友人無し ラベル『孤立・孤独』

あなたは下記のような会・グループに参加または興味がありますか



- 健康や医療に関連したボランティア活動
- 健康医療以外のボランティア活動
- スポーツ関係のグループ
- 趣味関係のグループ
- 特技や経験を他者に伝える活動
- 趣味関係のグループ
- 学習・習い事サークル
- インターネットでの家族以外との交流
- 地域行事 (お祭り、フリーマーケット等)
- 町内会・自治会
- 婦人会・青年会・協議会

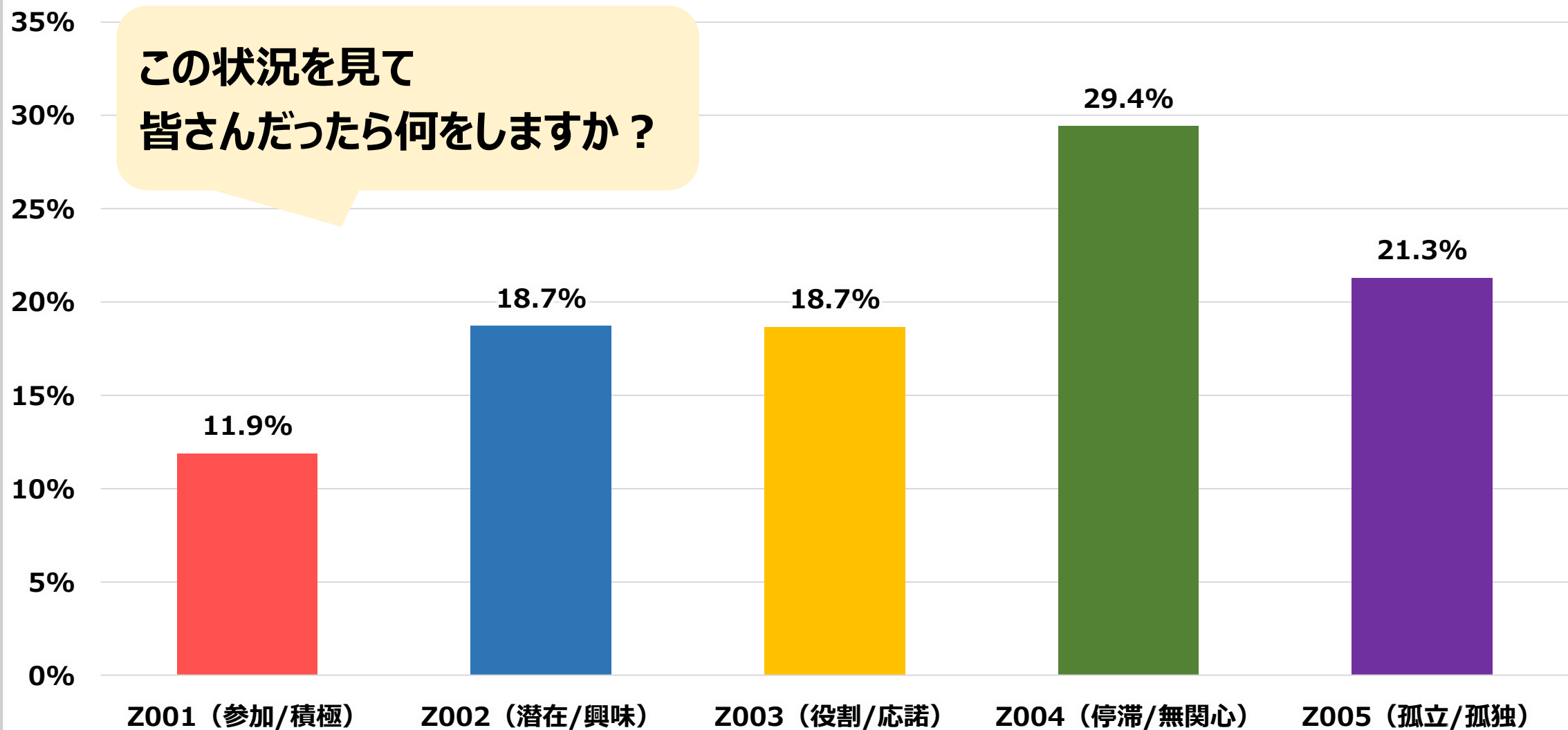
つながり | 3つの設問



- お互いに知っている人数
- 頻繁に連絡を取り合うことや定期的集まっておしゃべりする人数
- 助けを求められることができるくらい親しく感じられる友人の人数

5つのクラス

この状況を見て
皆さんだったら何をしますか？



■ データから抽出した仮説と戦略

● 地域の現状推察

参加する気がある人（Z002）や誘われればやる人（Z004）が、標準レベルで存在しているが「積極層（Z001）」は少ない

- 牽引役であるZ001がとても少ない為、巻き込んでいく最初の火付け役が足りていない
- Z004がとても多いということは、Z002、Z003にとっては「誰もやってないし、自分が目立って言い出すのも面倒だな」と遠慮してしまい、行動を起こせないのではないか

● 戦略立案

地域内の友人がいても参加しない層が多数を占めているため、この時点では住民同士のつながりを増やしても活動が活発にならないのではないか。

背中を押してくれる存在との接触や活動のきっかけを作り、活動を活発することで地域との多様な接点を作ることで、つながりを増やす



交流拠点「nocoto」でのことづくり

交流拠点 「nocoto」

●背景

地域には、「まちを良くしたい」「何か関わりたい」という想いを持つ人がいる一方で、**何から始めればいいのかわからない**
関わる入口がないという課題がありました。

●nocotoの役割

nocotoは、そんな人たちのための**“地域との最初の入口”**となる**交流拠点**です。

「気軽に立ち寄れる」「小さな役割から関われる」

想いや特技を地域活動につなげられる単なる場所ではなく、**行動を育てる「土台」**として機能することを目指しています。

●nocotoの仕組み

nocotoでは、いきなり大きな役割を求めず、**関わりのハードルを下げる“階段”**を設計しています。

小さな出番のグラデーション設計

立ち寄る → 参加する → 小さな出番をもつ → 主体的に関わる

例：

- セミナー参加
- nocotoサポーター制度
- 小箱ショップ出店
- イベント企画・運営参加



■ nocotoカードでの情報収集

交流拠点nocotoの利用者に「nocotoカード」を配布。カードにはPOSEIDONで作成したマイページへのリンクURLを2次元コードで貼付。カード毎にIDを割り当て、nocoto入口に設置したリーダーにて入退館時に使用

nocotoカードで取得しているデータ

- 入退館の情報
- nocotoカード配布時に寛容性・自律性を軸とした登録時アンケートを実施
- 毎退館時に入退館用PCへのアンケートを実施

個人のIDと紐づいたデータ取得が可能

個別の**ID毎**にアンケートにお答えいただいている為、**寛容性・自律性を軸としたどのような人か、どのような活動を行っているか**を判別が可能

さらに、nocoto入退館情報も**個別ID**に紐づいている為、**どのような人がどれぐらい来店しているか、どのような行動が行われたかを日常的にデータ化**している。

nocotoカード



nocotoスタッフの役割

- ・来館者のつながりの醸成
- ・来館者のサポーターへの誘導

課題

来館者の趣向や寛容性が分からない為、適切なイベントの案内やつながりを生むための声掛け等が勘や個人スキルに依存

ツール活用ポイント

- ・リアルタイムで来館者情報を閲覧可能
- ・イベント参加履歴や参加頻度、寛容性等が可視化され、スタッフの課題解決に活用

交流拠点での日常的なアクションによる来訪する住民の特徴の把握、つながりづくりへの効果検証

- ・入退館記録、登録情報（住民の特徴やつながり）を来館者のリアルタイムで見える化することによって、スタッフの取組に活用

活用中のダッシュボードから抜粋

ユーザーID: 001

来訪回数: 25回

手伝いの意向: 是非やりたい

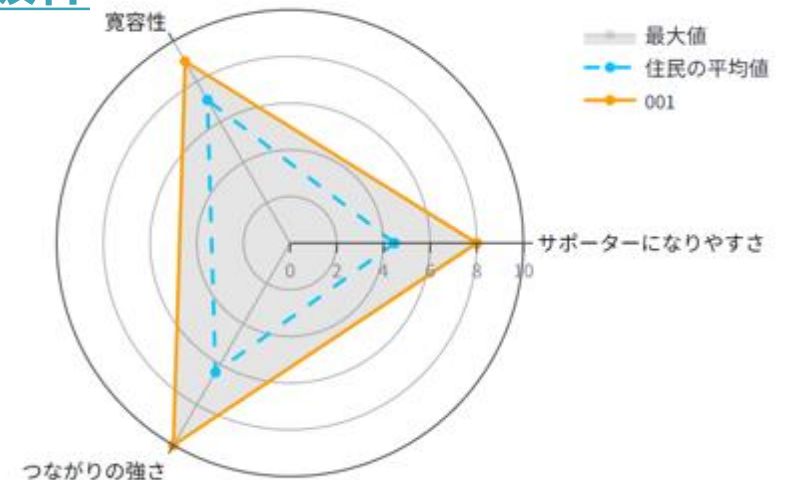
社会参加 自分の活動: 興味がある

社会参加 地域・他者のための活動: 現在参加している

これまでに参加したイベントなど:

・カフェ、Canva部: 1回

前回の訪問: 2025年10月13日



nocoto管理者の役割

- ・ イベントや企画の振り返りと企画立案

課題

つながり醸成等のコミュニティ企画の効果測定・要因分析が難しい為、勘と経験による企画立案になる。

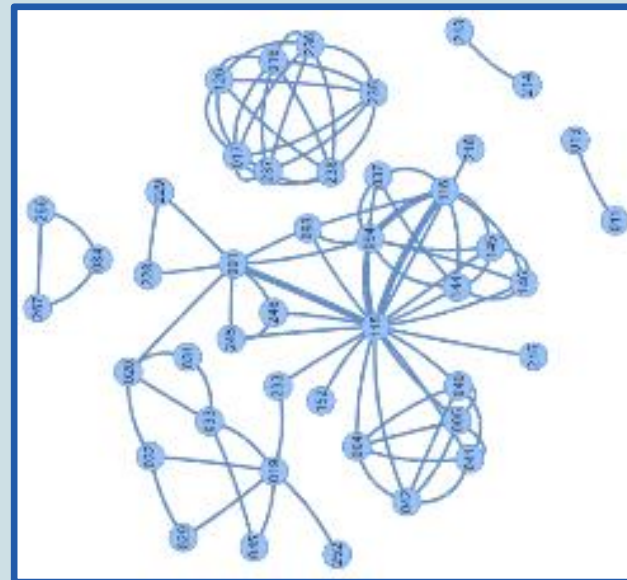
ツール活用ポイント

- ・ 個人IDによる蓄積したデータとイベントや企画のデータと併せて分析することで、データに立脚した振り返りと企画立案に活用

交流拠点での日常的なアクションによる来訪する住民の特徴の把握、つながりづくりへの効果検証

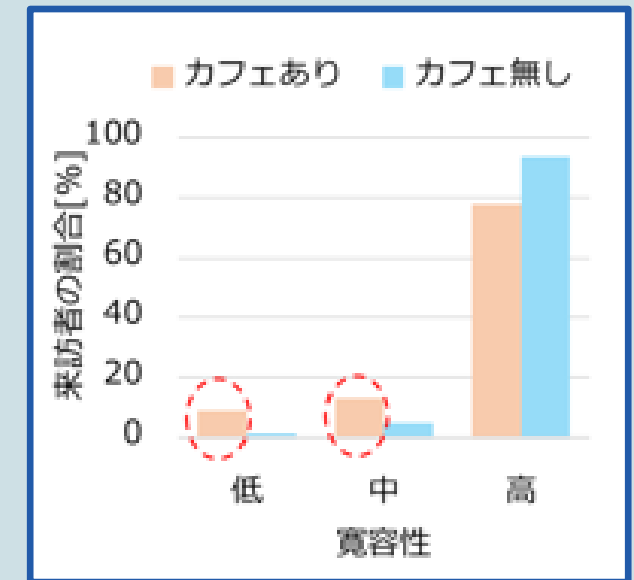
入退館記録、日常的なアクション（カフェ、キッチンカー、ごいっしょテーブルなど）のデータを元に、住民の特徴やつながりを分析

つながりの可視化



点：個人（ID） 線：つながり

来客者の属性の可視化



共感から参画へ

利用者としての関わりが、「ここで働きたい」につながった事例

nocoto ナラティブ

【背景】

もともと利用者としてnocotoによく来店されており、娘さんもイベントの実施に関わるなど、ご家族ぐるみでnocotoと接点を持たれていました。

【接点と転機】

そうした関わりの中で、スタッフが楽しそうにnocotoを運営している様子や、利用者スタッフの間に自然なやりとりが生まれている様子を、日常的に目にされていました。そこでどのように場がつけられ、どのように人が関わり合っているのかを感じ、nocotoに対する安心感や親しみ、そして共感を少しずつ育てていきました。そうした経験を重ねる中で、次第に「**自分も関わりたい**」「**ここで働いてみたい**」という思いが芽生えていきました。

【現在】

利用者としてnocotoに親しんでいた立場から、現在は**スタッフとして場を支える立場**になっています

**nocotoは、利用者が安心感や共感を育みながら、
自然な形で“関わる側” “支える側” へと移っていける場として機能しています**

専門性の地域実装

個人の得意が、nocotoを通じて地域にひらかれた事例

nocoto ナラティブ

【背景】

もともとパティシエとして働いていた経験があり、自宅ではオンラインでのお菓子教室も実践されていました。つまり、単にお菓子をつくる技術だけではなく、それを人に届け、場として成り立たせる力もすでにお持ちだったということです。

【接点と転機】

そのような中で、ある日nocotoに立ち寄られた際、これまでの経験やご自宅で実践されていたお菓子教室について話をする機会がありました。その何気ない会話の中で、「**nocotoでやってみたらどうですか**」と声をかけられたことが、大きなきっかけになりました。

【現在】

今ではスタッフとして関わりながら、ご自身の得意を活かした企画を実施されるようになりました。その取り組みが「スイーツの日」としてnocotoの定番企画のひとつになっています。

nocotoは、個人がすでに持っている専門性や得意を見出し、それを地域にひらかれた継続的な活動へと育てていける場として機能しています

挑戦のインキュベーション

将来の夢を、“まずやってみる”形で始めた事例

nocoto ナラティブ

【背景】

以前から、「いつかどこかで飲食店を開きたい」という思いを持たれていました。すでにやりたいことの方角性は明確にあり、ご自身の中にははっきりとした夢や構想があった一方で、それをどこで、どのように始めればよいかまでは、まだ具体化していなかった状況でした

【接点と転機】

その思いをnocotoの関係者に相談する中で、「**まずはnocotoで始めてみたらどうですか**」と声をかけられました。この声かけによって、それまで「いつかできたらいい」と思っていた構想が、まず**小さく始めてみる実践**へと変わっていきました。大きな夢ほど、最初の一步には不安や負担が伴いますが、nocotoのような場があることで、そのハードルは大きく下がります。

【現在】

今ではスタッフとして関わりながら、ご自身のやりたいことを具体的に試し始めて、「腸活ランチ」としてnocotoの定番企画のひとつになっています。

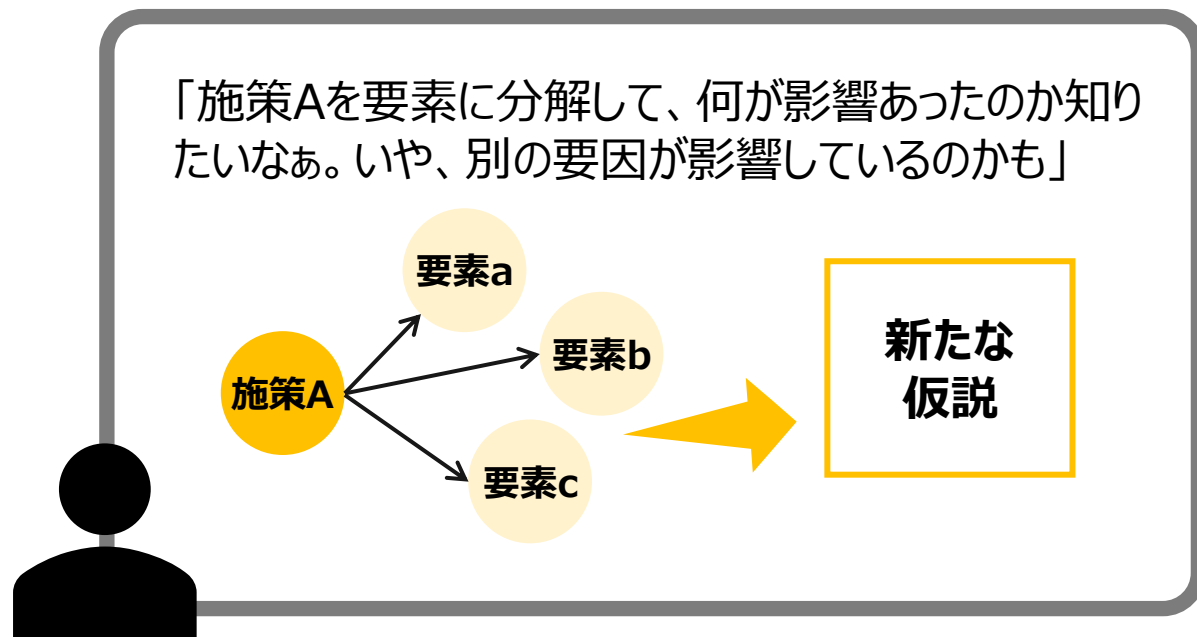
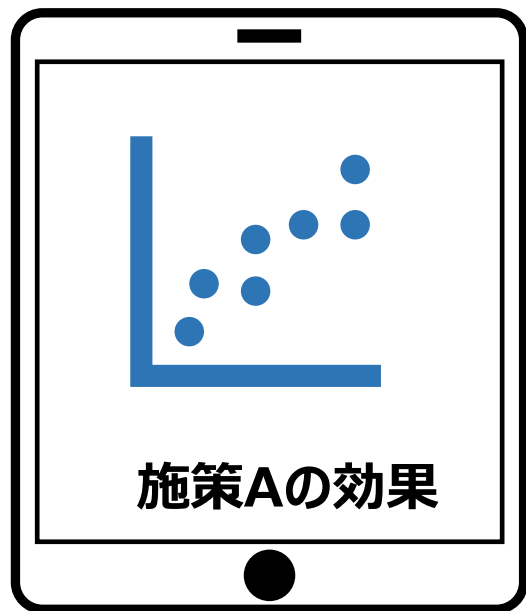
**nocotoは、誰かの思いを「いいですね」で終わらせるのではなく、
「では、ここでやってみましょう」と実践へつなげていく場として機能しています**



最後に

私たちが大切にしていること

データが“相関なのか”、“因果なのか”を疑い、仮説検証するプロセスへ



実施者が達成したいコト(仮説)に対して、リフレクション・リフレームを促すことが本質

“正しい”ロジックモデルを作るのではなく、検証可能なロジックモデルを改良できるようにすることで、『日々の仮説を検証し、新たなKPI（「知りたい」と思えること）を現場で考えられるようになることがカギ』

漠然とした想いを、どうやって具体的な活動に変えていくか

私たちが気づいたことは、無理なく関われる「階段」を用意することと、その活動を受け止める「器」をまちの中に持つことです。

「まちに関わりたい」という想いはいきなり形になるわけではありません。地域と関わりを深めていくプロセスには、緩やかな「階段」が必要だということです。

いきなり「主体性」を求めるのではなく、小箱ショップや日常利用という「第2・第3の歩幅の小さな階段」を意図的に用意し、誰もが自分のペースで関わり度合いを深めていける仕組みが重要です。

まだ見ぬ「関わりたい」を取りに行く

地域コミュニティが健全に活動を続けていくためには、イベントなどの「点」の活動だけでなく、それらを面で支える「器」が不可欠です。それは物理的な「器」でもあり、支える主体としての「器」でもあります。nocotoという「器」では、頼もしいスタッフに恵まれ、地域を良くするサイクルが回り始めました。

培った「関わり合いの階段をつくる」ノウハウを活かし、さらに活動の輪を広げていきます。

現在はまだ「第1歩（接点がない状態）」に留まっている層に対して、より良い入り口（こと）を企画し、まちを良くする仲間を一人でも多く増やしていくことがこれからの目標です。

ありがとうございました

